

## スーパー・コンビニととも 食の安全・安心を推進

### 中野冷機株式会社

スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどに欠かれない冷凍・冷蔵ショーケース。食品や飲料を効果的に陳列・保存し、消費者に安全・安心と買物楽しさを提供する。中野冷機はこの分野の専門メーカーとして、1954（昭和29）年に日本初の溶接構造ステンレス製ショーケースを開発し、56年には第1次南極観測隊向けに冷凍食品貯蔵用機器を製造・納入した実績を持つ。

#### ◎顧客に鍛えられ事業を拡大

創業は1917（大正6）年。102年の歴史で転機となったのはスーパーの誕生だ。60年代から全国各地で開店

ラッシュが続き、それに伴い中野冷機も業容を拡大。74年にはセブンス・イレブンの第1号店となる東京・豊洲店を施工した。

「顧客の悩み・要望に応え、信頼を獲得してきたことが成長の要因だ」。森田英治社長はこう振り返る。商品の見やすさ、取りやすさに徹底的にこだわるイトーヨーカ堂をはじめ、顧客からの要望を大切にして、試行錯誤を繰り返してショーケースを開発した。評判を聞きつけた他スーパーからの引き合いも増えたという。

また、冷凍・冷蔵設備が故障した際、迅速に対応できるメンテナンス体制の強化に力を入れる。商品損害や顧客の商機ロスを少しでも防ぐため、専門部署と全国各地の委託会社を含めて24時間365日のメンテナンス体制を敷く。

このほか自前の設計・施工部署や工場を持ち、設備の提案から設計、製造、施工、メンテナンスまで一貫して提供する点が最大の強みだ。「顧客の要望に迅速に対応できる



野菜をみずみずしく見せる冷蔵ショーケース

#### ●社是・理念

##### 【社是】

感謝 実意 努力

##### 【経営理念】

進取の気概と闊達な精神で明るい社風と世界に  
伸びる製品をつくり社会に貢献する



代表取締役社長

森田 英治 氏

● 長寿の秘訣

2017年に創業100周年を迎え、18年度を「第二の創業」元年と位置づけ、中長期経営計画の策定やCSR報告書の作成、働き方改革プロジェクトなどに取り組む。中国合併会社と東南アジア市場への進出を検討するほか、食品衛生管理の国際基準であるHACCPの義務化を見据え、クラウドで定期的に温度管理を記録するシステムを開発中。新たな市場開拓と技術開発が生き残りの鍵だ。



メイドインジャパンの製品を生み出す結城工場（茨城県）

● 会社概要

創 業：1917（大正6）年4月  
 設 立：1946（昭和21）年2月  
 所 在 地：東京都港区芝浦 2-15-4  
 事業内容：冷凍・冷蔵ショーケース、冷凍機などの設計・製造・販売・据付工事・保守  
 売上高：252億5,000万円（2018年度）  
 社員数：516名（2018年12月現在）

URL：<https://nakano-reiki.com/>



東京・芝浦の本社屋

のに加え、施工・保守しやすい設計・製造方法を社内  
 でフィードバックできる」と森田社長は解説する。  
 人手不足やネット販売の拡大に伴い、24時間営業の  
 見直しや実店舗の減少が進む流通業界。事業環境の激  
 変を受け、2019年度から23年度までの中長期経営  
 計画を策定。23年度に連結売上高350億円（18年度  
 実績283億円）、営業利益32億円（同22億円）の目  
 標を掲げ、3つの事業に取り組む。  
 その1つが、省力化製品の強化だ。例えばスライド  
 棚。スーパの日配コーナーに試験導入したところ、  
 品出し・日付管理・発注・棚卸しなどの作業時間が大  
 幅に短縮したという。また冷凍機内蔵ショーケースの  
 フィルターを簡易清掃する機能を開発し、省力化を実  
 現。このほか他社製品を含めたメンテナンス範囲の拡  
 大や東南アジア市場への進出を柱として掲げる。長寿  
 企業の新たな挑戦はまだ続きそうだ。